

私の考える  
博士力

とことん追求する  
力



## 見えない心理状態を「見える化」し、 トレーニングにつなげたい

立命館大学入学センター入学政策課 課長補佐 | 今川 新悟



let's access



この QR コードを読み取ると  
インタビュー動画を  
視聴することができます



この QR コードを読み取ると  
博士学位論文に  
アクセスできます

学位授与の年月	2019年3月
学位論文のタイトル	アイスホッケー選手の競技力向上 に向けた精神生理学的アプローチ について
指導教員名	佐久間 春夫
研究領域	スポーツ心理学
キーワード	メンタルトレーニング・セルフトーク・ 脳波・認知心理学・バイオフィードバック

学位取得を  
目指した  
きっかけ

社

会人として働きながら、アイスホッケーの京都府代表やオンラインホッケーの日本代表として競技に携わる中で、もっと科学的にアイスホッケーやオンラインホッケー競技を研究したいと考え、大学院へ進学しました。博士課程前期課程を修了後は、研究者と競技者と指導者を繋ぐ役割となり、科学的なトレーニングをスポーツの競技の現場に反映させていきたいと強く思い、博士学位の取得を目指しました。

在学中

想

像をはるかに超える研究の大変さを痛感した院生時代でした。博士前期課程を終えた後、まだ研究の入り口しか見えていないな~と思い、博士後期課程に進学しましたが、そこから先の見えない長い長い院生生活を送るとは思いもよりませんでした。平日の夜間と土日を中心に研究活動を進めながら、論文の執筆や学会発表などを重ねましたが、仕事や競技、プライベートとの両立も難しく、なかなか計画的に進まず大変苦労しました。ずっと何かの締切とプレッシャーに襲われながら、毎日を過ごしていた院生時代で、夜はノートパソコンを抱えながら、机で寝ている日々でした。このような経験も院生ならではの経験でしたので、今ではとても良い思い出です。

現在

大

学職員として、高校生のリクルートを担当する部署に勤務しているため、直接的に専門を活かせる仕事ではありませんが、アスリートのメンタルトレーニングやデュアル・キャリアを支援する企業のアドバイザーとして、アスリート支援にも携わらせていただいている。博士学位を取得している大学職員は非常に珍しいため、様々なところで重宝されており、講演依頼も頻繁にいただきます。留学やグローバル教育に力を入れておられる方々と仕事をさせていただく機会が多いので、博士学位の価値というものを実感する機会が多いです。苦労して取得した甲斐があったな~と実感しています。

将来像

人

の成長に携わる仕事の面白さにとてもやりがいを感じているので、当面は大学職員として、教育に携わっていきたいなと考えています。どうせやるからには、立命館大学を日本一の大学にできるよう、未来につながる先進的な取り組みを進めていきたいと思います。

何事も全力でやり切ることで、未来が拓けます